



きさらぎく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

春に向けて

旭町小学校 校長 道山 正史

2月の別名を「如月(きさらぎ)」といますが、これは寒さのために更に着物を重ねて着るので「衣更着」からきているという説があるそうです。2月が1年で一番寒いというイメージが私にはありますが、2月4日は立春、冬至と春分の真ん中で、暦の上ではこの日から春になります。様々な決まり事や節目はこの日から数えます。八十八夜や二百十日も立春から数えます。まだまだ寒いのですが、ぽつぽつと梅の花が咲き始めたりして、春の始まりとされます。また立春の早朝には、お寺によっては入り口に「立春大吉」と書いた紙札を張る習慣があるそうです。「立春大吉」は文字が左右対称で縁起が良く、一年間災難に遭わないとされているからだそうです。

あまり聞き慣れませんが2月19日は暦の上で「雨水(うすい)」といます。空から降ってくるのが雪から雨に変わり、氷が水になるという意味です。農業の準備を始める目安とされてもいます。春一番が吹いたり、逆に大雪が降ったりして安定しませんが、三寒四温を繰り返して春に向かいます。蛇足ですが、この「雨水」の日に雛人形を飾ると良縁に恵まれるといわれているそうです。

このように、2月は春に向けた様々な準備が始まる月といえるでしょう。学校生活でも1年間のまとめと共に、来年度の計画や気持ちの切り替えを促す活動が始まる月です。それぞれの学年や立場に応じた夢や目標の設定が、その後の成長に重要な役割を果たします。6年生はあと少しで卒業です。残された小学校生活の締めくくり方が重要です。締めくくりが良ければ、中学校での活動も充実したものになります。5年生は6年生にかわって最高学年としての動きが求められます。学校の顔としての気概をもつ必要があります。1年生から4年生も進級時への心の準備が様々な形を伴って始まります。

ときに各界で活躍している人が子供の時に夢や希望や目標をもっていて、それに向かって努力したということがよく雑誌や新聞で紹介されます。そういう人は時にはあきらめたり方向転換したりしても、その時々新たな夢や目標を設定しています。夢や目標に向かって努力し続ける姿勢が、その人を成長させ、確固たる成果を生み出していくのです。4月の進級に、そして次年度に向けて、各ご家庭でも夢や希望、目標や目的といったことについての会話を心がけてみていただければと思います。夢や希望をもち、目的意識を高くもった子供ほど確かな成長をするからです。